

専門教育科目、「英語学 I/英語学情報 I」

担当教員：秋山正宏

授業評価アンケート結果とその考察：
「英語学 I/英語学情報 I (2008 年度後期)」

英語教育講座・秋山正宏

「英語学 I/英語学情報 I」は、学校教員養成課程(英語専修を含む)および情報文化課程国際理解教育コースの英語教員免許状取得希望学生にとっての必修科目である。「授業の目標」および到達目標は以下の通りである。

授業の目標： 語、句表現、文といった人間の言語の構成単位は、それぞれより小さな単位を組み合わせて形成される。この授業は、そうした要素の結合方式にどのような規則性があるのかを、言い換えれば人間の言語の語形成や文の成り立ちにはどのような規則性があるのかを、主として英語と日本語の事実に基づいて明らかにする。

到達目標： ワークシートを用いた作業を通して、人間の言語の語の成り立ち、文の成り立ちに関する規則性を探る。この作業を通して、簡単な言語事実の分析が出来るようになると共に、論理的思考能力を身につける。また、英語教員や国語/日本語教員といった言語に関わる教員となるのに必要な言語学の知識を身につける。

具体的には、英語学より一般的には言語学の中核的下位分野である形態論、統語論について、以下に挙げる基礎的な内容を学んだ。

- 第 1 回 導入
- 第 2 回 形態論 1: 形態素と異形態
- 第 3 回 形態論 2: 派生
- 第 4 回 形態論 3: 屈折
- 第 5 回 統語論 1: 語のレベルの範疇 (品詞分類)
- 第 6 回 統語論 2: 句のレベルの範疇と節構造(a)
- 第 7 回 統語論 3: 句のレベルの範疇と節構造(b)
- 第 8 回 形態論 4: 複合語形成
- 第 9 回 形態論 5: その他の語形成
- 第 10 回 統語論 4: 変形規則の必要性
- 第 11 回 統語論 5: do による支え
- 第 12 回 統語論 6: 英語助動詞 have, be に関わる文法規則

- 第 13 回 統語論 7: 補部と付加部の区別
- 第 14 回 統語論 8: 節の構造と再帰代名詞の意味解釈

形態論 4, 5 が統語論 1-3 の後に行なわれているが、これは取り扱う内容が統語論で扱う内容を踏まえたものになっているからである。講義タイトルが「英語学 I/英語学情報 I」であるので、主として英語の言語事実の分析を通して授業が進められたが、形態論については受講者及び担当者の母語である日本語のデータも可能な限り扱うよう努めた。なお 3 年次後期の「日英語比較論」との兼ね合いもあり、統語論についてはあえて日本語の言語事実を取り上げなかった。また授業は全て担当者自作のワークシートに基づいて進められた。成績評価には、持ち帰りのワークシートを使用した。授業評価アンケートは、最終回授業時に行なった(回答者は 28 名)。今回は、アンケートの結果を公表し、その結果について、若干の解釈と考察を加えたい。

A あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

- 1. 全く意欲がわかなかった (0/28)
- 2. あまり意欲的に取り組まなかった (3/28)
- 3. どちらとも言えない (9/28)
- 4. やや意欲的に取り組んだ (14/28)
- 5. 非常に意欲的に取り組んだ (2/28)

平均値: 3.535

B この授業で使われたワークシートについてお尋ねします。

B-1 全般的に言って、ワークシートの作業の難易度についてどう思いますか。

- 1. 非常に難しかった (1/28)
- 2. やや難しかった (12/28)
- 3. ちょうどよい (13/28)
- 4. 比較的やさしかった (1/28)
- 5. 非常にやさしかった (1/28)

平均値: 2.607

B-2 それぞれのワークシートの種類、難易度に左右される部分が多いと思いますが、全般的に言ってワークシートに沿ったかたちで進められた担当教員の話は分かりやすかったですか。

1. 非常に分かりにくかった (2/28)
2. やや分かりにくかった (2/28)
3. どちらとも言えない (5/28)
4. 比較的分かりやすかった (14/28)
5. 非常に分かりやすかった (5/28)

平均値: 3.642

B-3 ワークシートの作業から学んだ内容およびそれに関連する担当教員の話は、(難易度は別にして)あなたにとっておもしろい(知的好奇心をくすぐる、といった意味で)ものでしたか。

1. 全くおもしろくなかった (0/28)
2. あまりおもしろくなかった (2/28)
3. どちらともいえない (10/28)
4. 比較のおもしろかった (13/28)
5. 非常におもしろかった (3/28)

平均値: 3.607

C この授業の担当教員に関してお尋ねします。

C-1 担当教員は、受講者にとって参加しやすく、かつわかりやすい授業を行おうとする努力、工夫をしているように感じられましたか。

1. 全く感じられなかった (0/28)
2. あまり感じられなかった (0/28)
3. どちらとも言えない (5/28)
4. 比較的強く感じられた (18/28)
5. 非常に強く感じられた (5/28)

平均値: 4.00

C-2 担当教員は、受講者の意見や疑問をくみ取り、かつそうした意見や疑問に真摯に答えようとしているように感じられましたか。

1. 全く感じられなかった (0/28)
2. あまり感じられなかった (1/28)
3. どちらとも言えない (8/28)
4. 比較的強く感じられた (14/28)
5. 非常に強く感じられた (5/28)

平均値: 3.821

D 最終課題の持ち帰りワークシートについてお尋ねします。持ち帰りワークシートは、この授業で学んだ事柄あるいは考え方について、再度復習したり理解を深めたりするのに有益だと思えますか。まだ持ち帰りワークシートの作業を始めていない人、あるいは眺めてもいない人はこの間に回答しなくて構いません(未記入者4名)。

1. 全然有益ではない (0/24)

2. あまり有益には思えない (1/24)
3. どちらとも言えない (3/24)
4. 比較的有益なように思える (13/24)
5. 非常に有益なように思える (7/24)

平均値: 4.083

E あなたは、この授業を通して、外国語としての英語、母語としての日本語、あるいはより一般的に人間の言語が持つ規則性に興味・関心が向くようになりましたか。(未記入者1名)

1. 全くそういった興味・関心が持てなかった (0/27)
2. あまりそういった興味・関心が持てなかった (2/27)
3. どちらとも言えない (5/27)
4. そういった興味・関心をやや持つようになった (12/27)
5. そういった興味・関心を非常に強く持つようになった (8/27)

平均値: 3.962

ワークシートの難易度(B-1, 平均 2.607)についてはほぼ想定した通りである。「わかりやすさ」(B-2, 平均 3.642)については、28名中19名が肯定的な評価をしているが、その反面「非常に分かりにくかった」とした学生と「やや分かりにくかった」とした学生がそれぞれ2名おり、この点は反省すべきである。「おもしろさ」(B-3, 平均 3.607)については、28名中16名が肯定的な評価をしているものの、「あまりおもしろくなかった」とした学生も2名おり、受講学生の知的好奇心をくすぐる工夫がさらになされるべきであると感じた。ただ言語の規則性についての興味を喚起することが出来たか(E, 平均 3.962)については、未記入者1名を除く27名中20名が肯定的な評価をしているので、ある程度言語の規則性についての関心を掻き立てることが出来たと考えてよいだろう。受講生側は教員側の工夫(C-1, 平均4.00, C-2, 平均3.821)をある程度評価しているようだが、受講者がより主体的に考えながら授業に参加出来るための工夫が今後も必要であろう。持ち帰りワークシート(第13回授業時に配布)の有効性については(質問D)、未記入者4名を除く24名中20名が肯定的な評価をしている。最終課題には、成績評価という目的だけではなく、学習内容の整理・確認という目的もあると考えられ、最終ワークシートの充実に向けて今後も努力を重ねたい。